

平成 28 年（2016 年） 3 月 23 日

長野県知事

阿 部 守 一 様

長野県信濃美術館整備検討委員会

委員長 竹 内 順 一

信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針（案）について

このことについて、別添のとおり報告します。

信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針（案）の概要

信濃美術館の経緯・現状

- 昭和41年10月 開館（49年経過）
昭和44年6月 長野県に移管
平成2年4月 東山魁夷館 開館
- 管理運営：長野県文化振興事業団
※ H18.4月～指定管理
館長以下 15名体制
※ うち学芸員7名（正規2名）
- 収蔵品数 5,000点（うち本館4,032点）
- 入館者数 13万7千人（H26）
※ ピークはH2年の45万8千人

主な課題

- 善光寺に隣接する有利な立地条件を、集客につなげられていない。
※善光寺の来訪者：年間約600万人
美術館の入館者：年間約17万人（過去5年）
※H27御開帳 に707万人が来訪
この期間の入館者は3万3千人
- 老朽化が著しく、狭隘でバリアフリー化も遅れているため、幅広い年代層に美術に親しむ機会を十分提供できていない。
- 全国一の数を誇る県内 105館の美術館の中核を担える体制になく、信州の多様な文化芸術の魅力を十分に発信できていない。
- 学芸員が不足しており、他の美術館の支援や調査研究等を十分に行い得ない。
※H10以降開設の延床1万㎡以上の県立美術館の平均11人（正規9人）
- 展示室が狭く、大規模企画展の開催が困難。また、老朽化等により、貴重な美術品の管理に支障を来すおそれがある。
- 信州ゆかりの貴重な収蔵作品の展示の機会を十分に確保できていない。

コンセプト

ランドスケープ・ミュージアム

国宝・善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館

- 優れた芸術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供
- 誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供

美術による学びの支援

- 子どもからお年寄りまで、美術に親しみ、楽しみながら、感性を磨き、様々な才能を伸ばす機会を提供
- 小中高校生や大学生に美術から学ぶ機会を提供
- 信州ゆかりの芸術家や地域の芸術活動を支援

信州と世界の交流ステージ

国内外の人々が集い、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点

信州の地域文化の多様性を活かす

- 信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介
- 県内の美術館ネットワークの中核を担い、信濃美術館収蔵品の巡回展など連携・協働の取組を推進
- 県内美術館の紹介など文化芸術に関する情報を収集・発信。調査・研究など県内の学芸員の活動を支援

世界水準の作品展示と信州芸術の紹介

- 国宝・重文級の作品や世界的にも著名な作品など世界水準の芸術作品の鑑賞機会を提供。全国規模の巡回展の企画・開催
- 郷土の芸術家の紹介、信州ゆかりの芸術家の育成支援・国際交流の促進
- 将来性ある芸術家の作品など「進化・成長する美術館」をめざしての作品収集

施設整備の考え方

立地条件を活かした整備

- 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープ・ミュージアム
- 城山公園と善光寺東庭園が連続的に一つの庭園となるように整備
- 善光寺東庭園から美術館までの移動しやすい回遊路の設置

既存施設との関係

- 信濃美術館は、管理棟・展示棟ともに全面改築
- 東山魁夷館と新美術館は、機能性や利便性の面から接続

施設の配置

- 城山公園内に配置
- 施設配置や公園との一体化は、建築家と調整

施設の規模

- コンセプトを実現しうる施設として11,000～12,000㎡程度で整備

設計者の選定

- プロポーザルを基本とし、長野県の気候風土への配慮を条件化
- 選定方法のメリット・デメリットを整理し、国や他県の調査研究を進め、さらに検討

信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針(案)

平成28年3月

長野県信濃美術館整備検討委員会



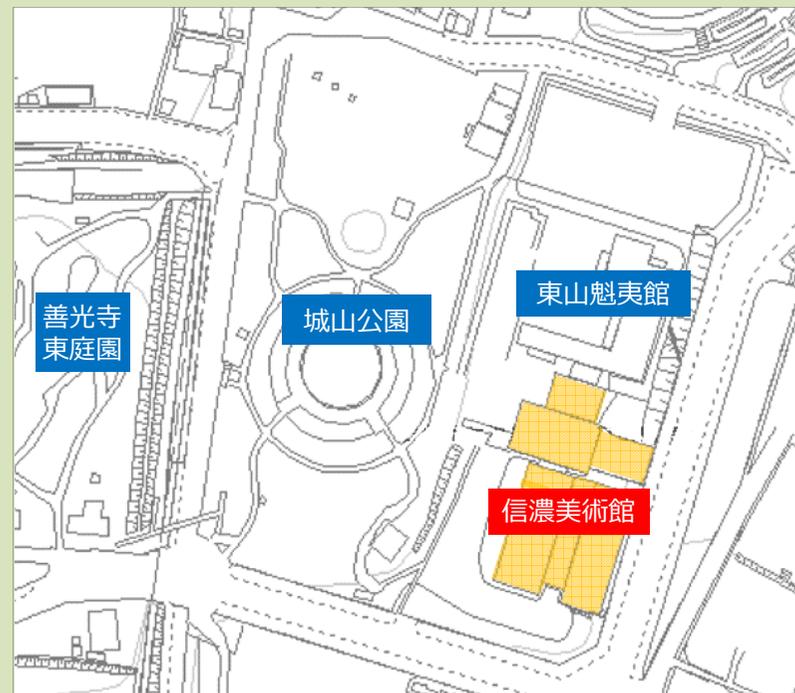
< 目 次 >

1. 信濃美術館の経緯と現状	1
2. 信濃美術館の主な課題	2
3. 新美術館のコンセプト	3
4. 施設整備の考え方	12
5. 今後検討すべき課題	18

1. 信濃美術館の経緯と現状

信濃美術館の概要

- 昭和41年10月1日開館（49年経過）
- 昭和44年6月長野県に移管
- 収蔵作品数 4,032点
- 入館者数 13万7千人（H26）
ピークはH2年の45万8千人
※東山魁夷館との合計
- 管理運営：長野県文化振興事業団
 - H18.4月～指定管理
 - 館長以下15名体制 うち学芸員7名（正規2名）（H28.1.1現在）
※東山魁夷館を含む。



東山魁夷館の概要

- 平成2年4月26日開館（25年経過）
- 収蔵作品数 968点
- 管理運営：長野県文化振興事業団



善光寺東庭園



城山公園



2. 信濃美術館の主な課題

○ 善光寺に隣接する有利な立地条件を、集客につなげられていない。

- 善光寺の来訪者：年間約600万人
- 美術館の入館者：年間約 17万人（過去5年）
- 御開帳（H27. 4. 5～5. 31）参拝者：707万人
この期間の入館者は3万3千人

○ 施設の老朽化が著しく、狭隘でバリアフリー化も遅れているため、幅広い年代層に美術に親しむ機会を十分提供できていない。

- 入口、展示室が2階、講堂が3階に設置され、エレベーターにより移動できない状況

○ 全国一の数を誇る県内 105館の美術館の中核を担える体制になく、信州の多様な文化芸術の魅力を十分に発信できていない。

- 県内美術館の情報発信は企画展等のチラシの配置に留まっている

○ 学芸員が不足しており、他の美術館の支援や調査研究等を十分に行い得ない。

- 信濃美術館：学芸員7名（正規2名）H28. 1. 1現在
※H10以降開設の延床1万㎡以上の県立美術館の平均11人（正規9人）

○ 展示室が狭く、大規模企画展の開催が困難。また、老朽化等により、貴重な美術品の管理に支障を来すおそれがある。

- 展示室が893㎡と狭く、「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」など全国規模の巡回展では、展示壁面の不足を補うため、仮設壁を増設し、通常1段掛けの展示を2段掛けにするなどして対応

○ 信州ゆかりの貴重な収蔵作品の展示の機会を十分に確保できていない。

- 展示室が狭く、常設展示を行うスペース的な余裕がないため、企画展示中心に運用

3. 新美術館のコンセプト

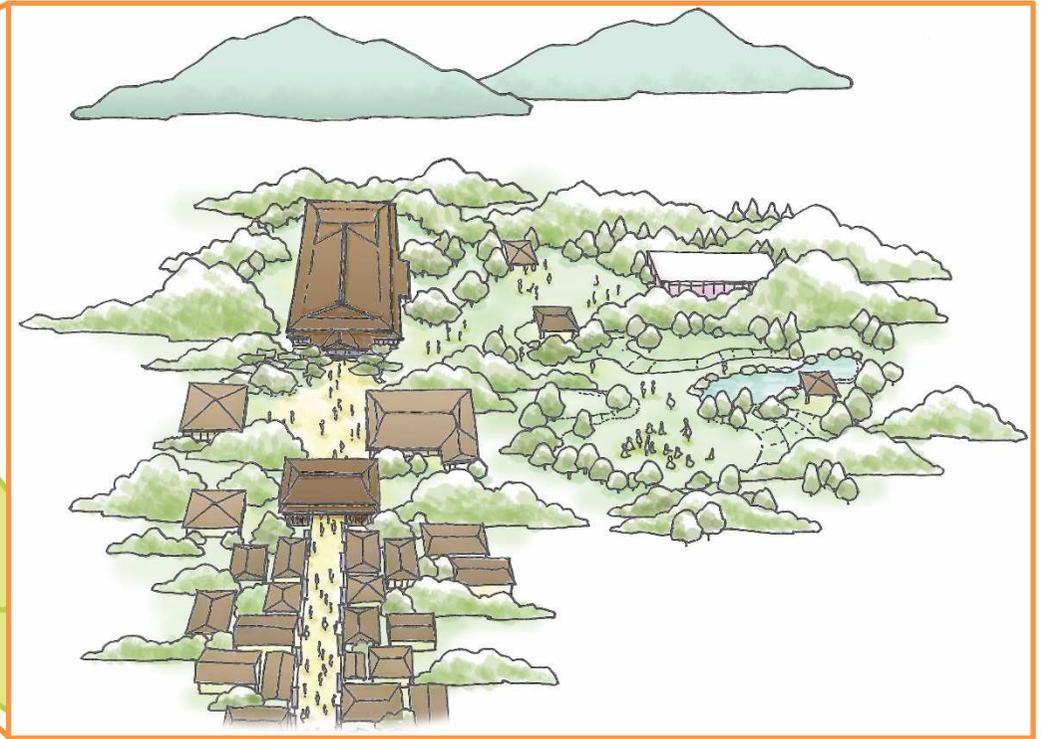
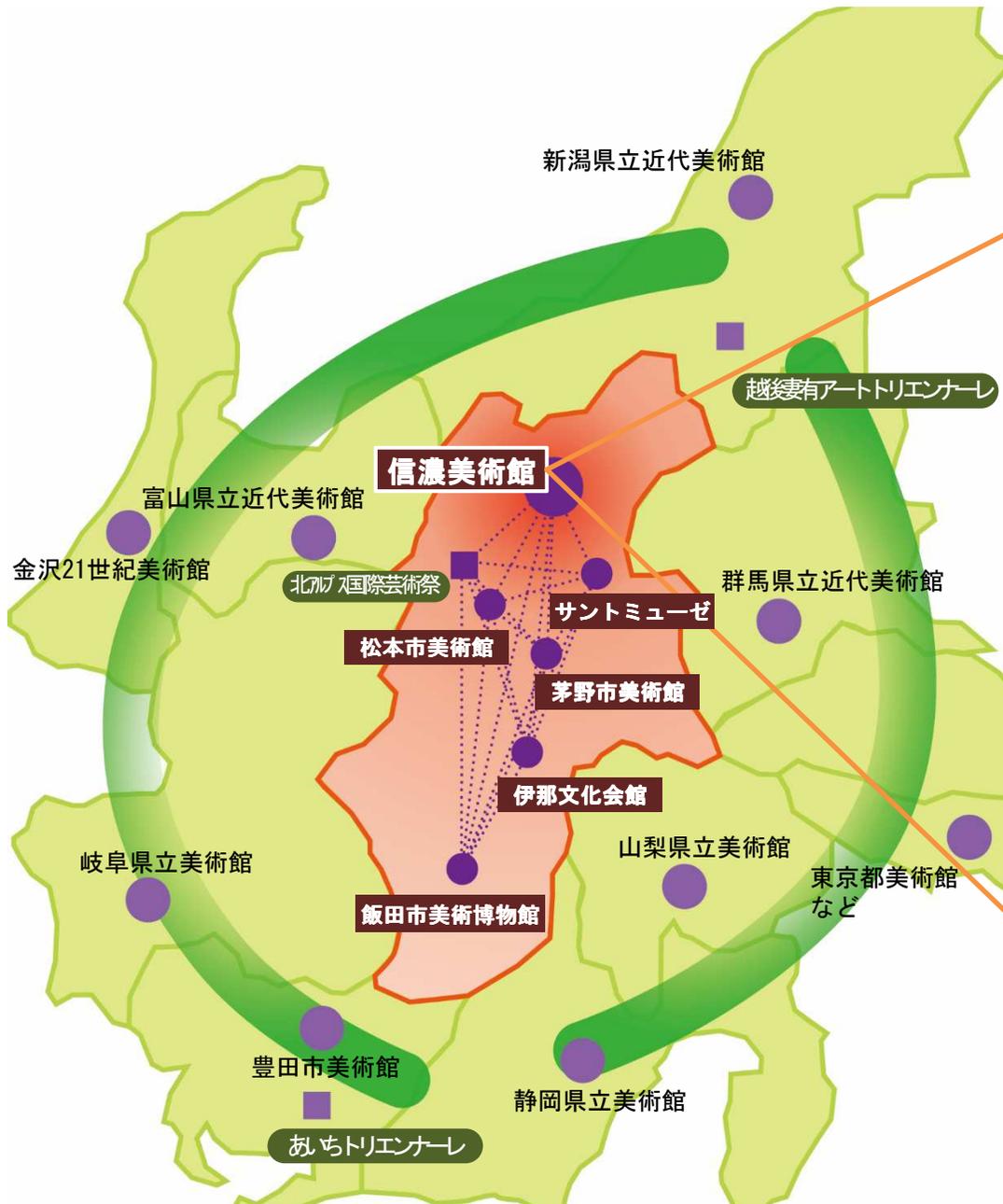
めざす姿

コンセプト	役割・機能
ランドスケープ・ミュージアム 国宝・善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 優れた芸術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供 ○ 誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供
美術による学びの支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもからお年寄りまで、美術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、様々な才能を伸ばす機会を提供 ○ 小中高校生や大学生に美術から学ぶ機会を提供 ○ 信州ゆかりの芸術家や地域の芸術活動を支援
信州の地域文化の多様性を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介 ○ 県内の美術館ネットワークの中核を担い、信濃美術館収蔵品の巡回展など連携・協働の取組を推進 ○ 県内美術館の紹介など文化芸術に関する情報を収集・発信。調査・研究など県内の学芸員の活動を支援
世界水準の作品展示と信州芸術の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国宝・重文級の作品や世界的にも著名な作品など最高水準の芸術作品の鑑賞機会を提供。全国規模の巡回展の企画・開催 ○ 郷土の芸術家の紹介、信州ゆかりの芸術家の育成支援・国際交流の促進 ○ 将来性ある芸術家の作品など「進化・成長する美術館」をめざしての作品収集

信州と世界の交流ステージ

国内外の人々が集い、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点





信州の山並み、門前町の町並みと一体化した文化的空間（イメージ）

3.1 ランドスケープ・ミュージアム 国宝・善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館 3. 新美術館のコンセプト

国宝・善光寺に隣接し、自然景観に恵まれた城山公園内に位置する立地条件を活かし、東山魁夷館とともに信州の山並み、門前町の町並み等と一体化した文化的な空間・美しい景観を創造する美術館とします。

III 役割・機能

優れた芸術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供

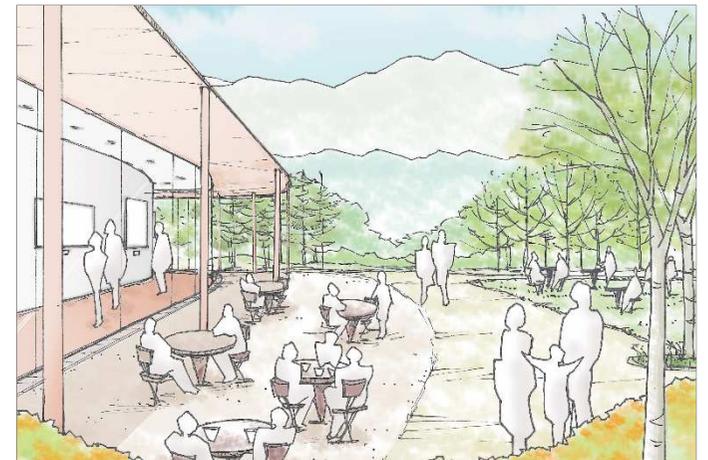
- 善光寺との回遊性を高め、人々が自然と行き来できる
- 東山魁夷館や周辺環境と調和し、それ自体が美しくかつ機能的な美術館として地域のシンボリックな存在となる
- 信州の自然や山並みを絵のように楽しむことができる

誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供

- 美術館のオープンスペースで誰でも自由に休憩し、交流できる
- 信州の魅力（芸術文化や観光）に関する情報を入手できる
- 幼児、高齢者や障がいのある方も不自由なく利用できる
- インバウンド対応が十分に図られ、外国人観光客が心地よく利用できる



美術館からみた風景(イメージ)



美術館で集い憩う様子(イメージ)

3.2 美術による学びの支援

美術による学びの場や学習・研究の場を提供し、県民が美術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、豊かな心を育むとともに、自らの隠れた才能に気づきを与える美術館とします。

III 役割・機能

美術に親しみ、楽しむ機会の提供

- 美術に触れることを通じて、感性や創造性を伸ばし、人生をより豊かにする機会を提供する
- 子どもたちが親子一緒に芸術作品に触れたり、創作体験ができる場を提供する
- 生涯学習の機会としての芸術鑑賞や自らの作品を発表する場を提供する

美術を学ぶ機会の提供

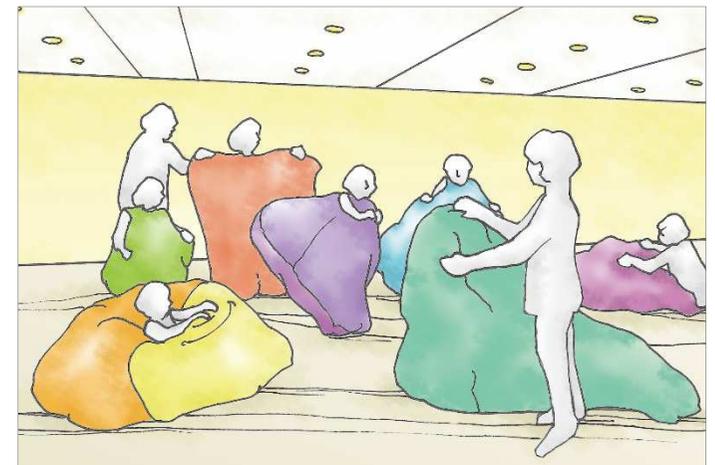
- 未就学児のための美術に親しむ機会を提供する
- 小中高生の美術教育のための芸術鑑賞や体験プログラムの場を提供する
- 美術を学ぶ大学生の学習・研究の場を提供する
- 障がいのある者が美術に親しみ、学び、才能を発揮する機会を提供する

信州ゆかりの芸術家や地域の芸術活動の支援

- 今後活躍が期待される若手芸術家をはじめ、信州ゆかりの芸術家に創作活動や発表の場を提供する
- アーティスト・イン・レジデンスによる制作作品の展示やワークショップ、異なるジャンルのアーティスト・学芸員との交流や互いに刺激し合える場を提供する
- 地域資源を活かした芸術活動（工芸を含む）の振興と産業化に向けた取組を支援する



未就学児の鑑賞教育(写真提供:大原美術館)



若手芸術家によるワークショップ(イメージ)

信州の各地域の文化の多様性を活かすため、全国一の数を誇る県内美術館のネットワークの中核を担い、巡回展等の連携・協働の取組、人づくり、情報発信、調査・研究等を支援する美術館とします。

III 役割・機能

信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介

- 安曇野アートライン、諏訪湖アートリングなどの取組に関する情報を紹介する
- 信州の地域文化を代表する芸術作品等（工芸品を含む）を展示・紹介する

県内美術館や学芸員の活動の支援

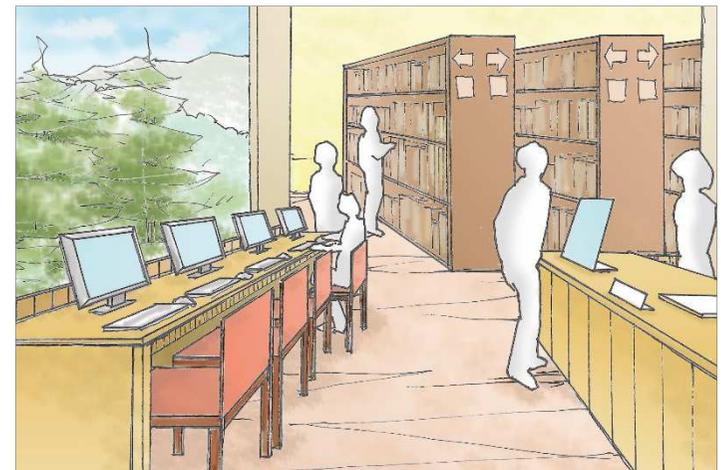
- 県内美術館との共同企画や巡回展などの連携・協働の取組を推進する
- 学芸員の資質向上につながる研修や国内外の芸術家等との交流の機会を提供する
- 美術館を核としたまちづくり（アーティスト・イン・レジデンスの取組など）を支援する

文化芸術に関する情報の収集・発信と調査・研究

- 県内美術館の収蔵品や企画展の情報をインターネット等で発信する
- 文化芸術に関する最新情報など文化イベントの企画等に必要な情報の収集・提供を行う
- 信州の文化芸術に関する調査・研究を行う
- クリエイティブな人材が国内外から集まり、互いに高め合う知的なハブになる



学芸員を対象とした研修会



学芸員や研究者などが利用するリサーチセンター(イメージ)

世界水準の芸術作品を鑑賞できる企画展を開催するとともに、広く郷土の芸術家やその作品を紹介する美術館とします。

III 役割・機能

優れた芸術作品の鑑賞機会の提供

- 国宝、重要文化財級の作品や世界的にも著名な作品等の世界水準の芸術作品を鑑賞する機会を提供する
- 多くの人が芸術作品に触れ、楽しめる全国規模の巡回展を企画し、開催する

郷土の芸術家の紹介、信州ゆかりの芸術家の育成支援・国際交流の促進

- 収蔵する信州ゆかりの芸術作品を展示し、郷土の芸術家を国内外に紹介する
- 今後評価が高まることが期待される信州ゆかりの芸術家を国内外に紹介するとともに、国内外の芸術家等と交流する機会を提供する

「進化・成長する美術館」をめざしての作品収集

- 国際的な活躍などを踏まえた将来性のある芸術家の作品を収集する
- 信州ゆかりの芸術家を中心に優れた現代美術の作品を収集し、その中でアーティスト・イン・レジデンスも活用し、国内外の芸術家との絆を築き、深める
- 神聖な信州の自然・山並みや善光寺をイメージできる山岳文化や精神文化（いのり）に通じる作品を収集する



企画展「いのりのかたち」

信濃美術館の主な収蔵品

- | | |
|--------|----------------|
| ・菱田春草 | 「羅浮仙」 |
| ・川上冬崖 | 「ヒポクラテス」 |
| ・荻原碌山 | 「女」 |
| ・菊池契月 | 「光明皇后」 |
| ・林 倭衛 | 「出獄の日の〇氏」 |
| ・川村驥山 | 「詠信州山水」 |
| ・草間弥生 | 「No. PZ」 |
| ・池田満寿夫 | パーフェクトコレクション |
| ・松井康成 | 「練上玻璃光大壺 輪廻転生」 |



(写真提供: 善光寺)



(写真提供: 長野市)

新・県立美術館

信州の魅力の発信の「場」

国内外の人々が集う
文化・観光の一大拠点

目標値: 年間利用者数 100万人



国内外に向け、信州の魅力を広く発信し、また、集客を図るために、今後取り組むべき課題は以下のとおりです。

- 美術館における信州のイメージの具現化
- 集客戦略
 - 美術館やその周辺で集客力がある活動やイベントが恒常的に行われる仕組みづくり
 - 地域全体を美術館とする場づくり
 - JRや旅行会社とタイアップした観光商品の造成
- ネットワークづくり
 - 県外美術館との県域を越えるネットワークづくり（金沢21世紀美術館、豊田市美術館等）
 - 海外の美術館との連携（作品の相互の貸し借り等のほか、国際的な評価、知名度向上を意識）
- 人材育成
 - 県外や海外の美術館との相互交流（研修）
 - 世界で活躍できるグローバル人材（アーティスト、学芸員、アート・マネージャー等）の育成

4. 施設整備の考え方

次の5つを施設整備の基本的な考え方とします。

立地条件を活かした整備

- 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープ・ミュージアムにする
- 城山公園と善光寺東庭園が連続する1つの庭園となるよう整備する

既存施設との関係

- 信濃美術館は、管理棟・展示棟ともに全面改築する
- 東山魁夷館と新美術館は、機能性や利便性の面から接続させる

施設の配置

- 城山公園内に配置する
- 施設の配置や公園の一体化は長野市と善光寺との協議を踏まえて、建築家と調整する

施設の規模

- 新美術館のコンセプトを実現しうる施設として、延床面積 11,000 ~ 12,000㎡程度とする

設計者の選定

- プロポーザルを基本とし、長野県の気候風土への配慮を条件化する
- 選定方法は、国や他県の事例の調査研究などを進めるとともに、それぞれの選定方法のメリット・デメリットを整理し、さらに検討する

4.1 立地条件を活かした整備

- 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープ・ミュージアムにする
- 城山公園と善光寺東庭園が連続的に一つの庭園となるよう周辺整備を行う
- 善光寺東庭園から美術館までの移動しやすい回遊路を設ける

周辺整備に関する関係機関との協議事項(A～D)

アプローチ

善光寺来訪者(北側駐車場)

北側駐車場利用者やバス利用者が、善光寺東庭園を通して新美術館にアクセスできることが望ましい。



アプローチ

善光寺来訪者(本堂から)

善光寺来訪者が善光寺東庭園を通して新美術館にアクセスできることが望ましい。



A. 善光寺東庭園の整備 (長野市、善光寺と協議)

善光寺東庭園から新美術館を見通せるようになれば、城山公園との連続性が確保され、東庭園周辺で開催の“びんずる市”来訪者も美術館に足を運びやすくなる。



B. 美術館周辺の公園整備 (長野市と協議)

新美術館の建設に併せて、市道で囲まれた公園エリアの再整備が望ましい。



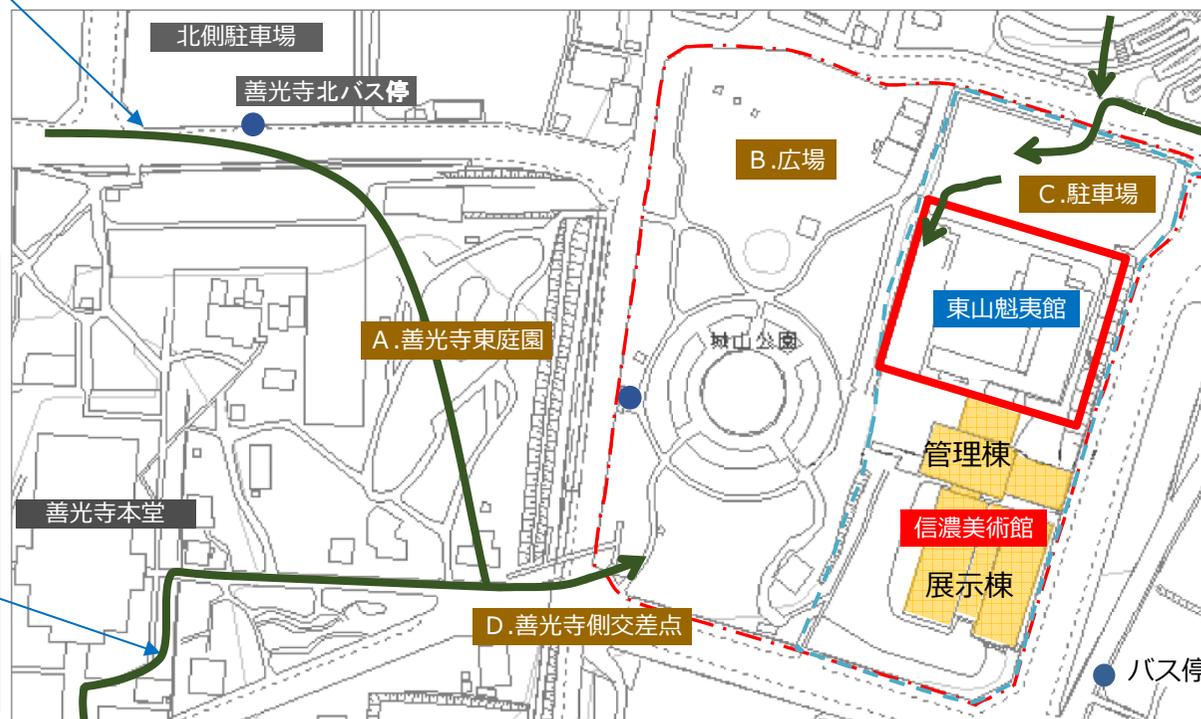
C. 駐車場の一体整備 (長野市と協議)

新美術館は公園施設のため、公園利用者の駐車場と一体で整備することが考えられる。



D. 善光寺側交差点の改良 (長野市、県警と協議)

スクランブル交差点化や歩行者天国、時間による通行規制が考えられ、改良により、歩道橋の撤去も可能になる。



- 信濃美術館は、管理棟、展示棟とも全面改築とする
ただし、ファサード部分の記録・保存や活用については建築家と調整する
- 東山魁夷館と新美術館は、機能性や利便性の面から接続させる



- 接続させる場合の前提条件は次のとおり
 - 東山魁夷館との外観を含めた調和
 - 東山魁夷館の利便性の維持・向上のための動線確保
- 東山魁夷館と新美術館の施設・設備の共用化により、機能性や利便性の向上を図る
 - 共用が想定される施設
保管庫、収蔵庫、図書室、館長室、事務室等

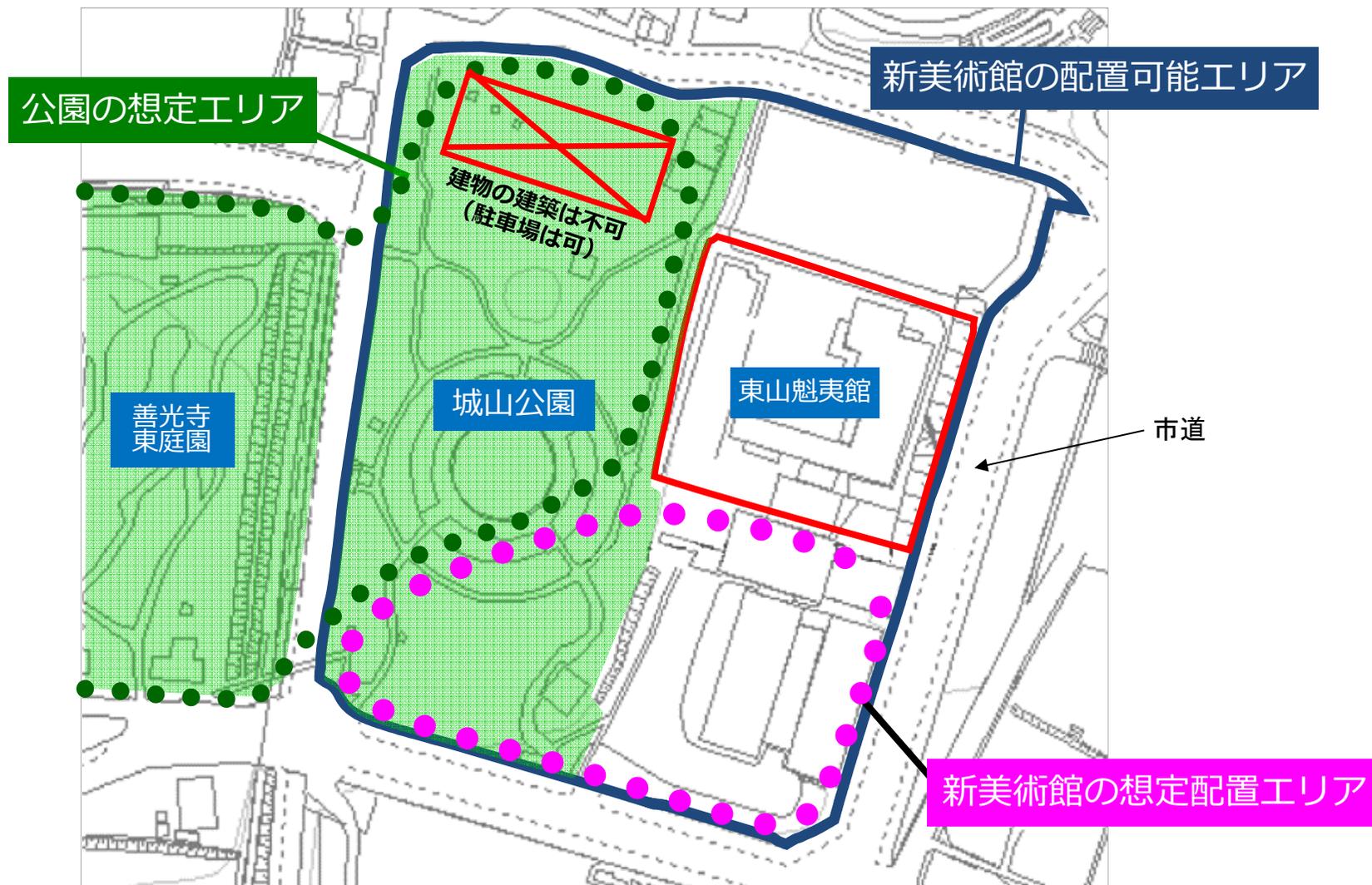


- 全面改築とする理由
 - 施設の老朽化が著しく、バリアフリー化も遅れている
 - 展示室・収蔵庫の温室度管理が国宝・重文級の作品を管理するのに十分とは言えない状況にある
 - ファサードの活用
 - 機能的に活用が可能であれば保存も検討する
- ※ファサード・・・建物の正面部分のこと

4.3 施設の配置

○新美術館の配置エリアは、城山公園内とする（土地所有者である長野市から提示された青枠のエリア内：約29,000㎡）

○施設の配置や公園との一体化については、長野市や善光寺との協議を踏まえ、建築家と調整する



用途地域等による制限：第一種低層住居専用地域、第二種風致地区

4.4 施設の規模

○新美術館のコンセプトを実現しうる施設として、延床面積11,000～12,000㎡程度で整備する

部 門	延床面積(㎡)	主な施設
展示部門	2,700	常設展示室 1,000㎡、企画展示室 1,500㎡、バックヤード等
収蔵部門	2,500	収蔵庫 1,500㎡ 一時保管庫、荷解室、トラックヤード、撮影室、生物対策室、修復室、備品保管庫等
教育普及	1,300	県民ギャラリー(貸しスペース)500㎡、講堂 300㎡、ワークショップ室・アトリエ 200㎡ こどもの広場、託児室、授乳室、救護室、サポーター室、打合室等 ※講堂、ワークショップ室・アトリエは、多目的仕様とする
調査研究	400	図書室、研究室、画像処理室、リサーチセンター等
サービス	700	エントランス、ロビー、ラウンジ、カフェ、ショップ等
管理・共用	3,400	管理部分(事務室、会議室、機械室等) 共用部分(トイレ、廊下等)
合 計	11,000	(参考)全国の県立美術館の平均:約12,000㎡(H10年以降開設)

※個々の部門の面積等は、管理・運営方法を明らかにする中で具体的に決定する

【レストラン、カフェ、ショップ】

- レストラン 美術館の中につくらず、公園の魅力向上のための施設として、長野県と長野市で協議
- カフェ 新美術館、東山魁夷館共通で1箇所設置
- ショップ 新美術館、東山魁夷館それぞれに設置

- 東山魁夷館との調和、東山魁夷館との接続等に関する設計条件の考慮が必要であることを踏まえ、設計段階で発注者の細かな意見や要望を反映できるプロポーザル方式を基本とする
- プロポーザル方式とする場合は、長野県の気候風土に配慮することを条件化する
- 選定方法は、国や他県の事例の調査研究などを進めるとともに、それぞれの選定方法のメリット・デメリットを整理し、さらに検討する

【参考】 プロポーザル方式とは

技術力や経験、プロジェクトに臨む体制などを含めたプロポーザル（提案書）の提出を求め、優れた設計者を選ぶ方式

特徴 1 設計者（人）を選ぶ方式

設計案ではなく、設計を委託すべき適任者を選ぶ方式

特徴 2 設計は発注者と設計者との共同作業

具体的な設計が発注者との共同作業により進められるため、建築設計に発注者の細かな意見や要望が反映できる

特徴 3 選定までの費用・労力・時間の負担が少ない

実施方針、設計体制、実績などに関する提案書類の作成が中心のため、発注者も提出者も簡便に対応できる

「質の高い建築設計を目指してープロポーザル方式ー」国土交通省大臣官房官庁営繕部パンフレットをもとに作成

5. 今後検討すべき課題



コンセプト	検討課題
<p>ランドスケープ・ミュージアム</p> <p>国宝・善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○公園のコンセプト 長野市と善光寺との協議を通じ、建物と一体化した公園整備に向け、同時並行で公園のコンセプトを検討 ○町並みとの一体化 空き家スペースを活用した美術館のサテライト化など、町並みと一体化を図る取組を推進 ○ランドスケープ・ミュージアムの位置づけの普及・定着 案内図やホームページ、ガイドブック等でエリアとしてのランドスケープ・ミュージアムを積極的に紹介 ○新県立美術館の名称 県民に親しまれる名称の検討
<p>美術による学びの支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○組織体制の早期検討 教育普及プログラムのノウハウの蓄積や学校との連携体制の構築に向けた学芸員等の体制整備 ○学校現場との連携 美術館における美術教育を普及・促進していくための学校や教育委員会への働きかけや連携した取組
<p>信州の地域文化の多様性を活かす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○県内美術館のネットワーク化 収蔵品の交換展示や共同企画展の開催、人事交流を進めるため、県内美術館との姉妹提携等を推進
<p>世界水準の作品展示と信州芸術の紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コレクションポリシーの策定 収集分野を従来からのいわゆる「純粋美術」（絵画、彫刻等）に限定せず、現代美術の多様な展開を踏まえつつコレクションポリシーを策定